

# 岩手県感染症週報

平成30年第6週(2月5日～2月11日)

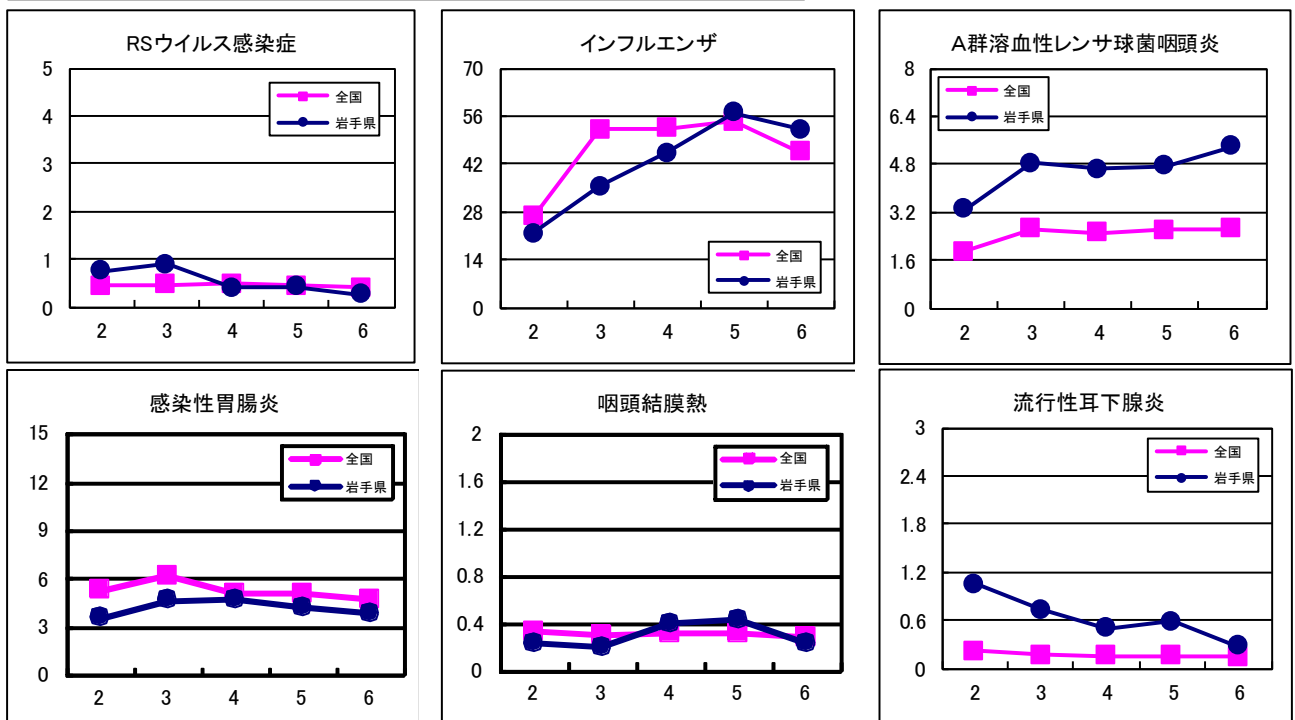
岩手県感染症情報センター

## 第6週の概要

- 1類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 2類感染症 ・結核の報告が5例ありました。このうち潜在性結核感染症の報告は1例です。
- 3類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 4類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 5類感染症 (全数把握対象疾患)
  - ・カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症の報告が盛岡市及び中部地区から1例ずつありました。患者はいずれも70歳代の女性です。
  - ・梅毒の報告が盛岡市から2例ありました。患者は30歳代と80歳代の男性です。
  - ・百日咳の報告が久慈地区から1例ありました。患者は6歳の男の子です。
- 5類感染症 (定点把握対象疾患)
  - ・インフルエンザは3週続けて県内すべての地区で警報値(定点あたり患者数30人)を超えました。年齢層別では14歳以下が全体の65%を占めており、学校等での感染拡大に引き続き注意が必要です。症状がある場合は学校や職場に行かず、早めに受診することが勧められます。発症後3～7日間はウイルスを排出すると言われていていることから、熱が下がった後もマスクの着用をはじめとした咳エチケットを継続して感染拡大を防ぐこと、手洗いで予防することが重要です。
  - ・感染性胃腸炎は、中部地区の保育所からノロウイルスによる集団感染事例の報告がありました。ノロウイルスは感染力が強く、患者の吐物や便に多量に含まれているため注意が必要です。調理前や食事前、トイレの後には石けんと流水による十分な手洗いを行うこと、患者の吐物や便は使い捨ての手袋やマスクを着用し、塩素系薬剤で処理することが重要です。

## 最近の注目疾患 (定点あたり患者数の過去5週の動き)

(疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意)



定点把握対象疾患 (過去5週の動き)

報告週対応表 <http://www.nih.go.jp/niid/ja/calendar.html>

※2018年1月1日より百日咳が5類感染症 (定点把握疾患) から5類感染症 (全数把握疾患) へ変更されました。  
 ※2013年第42週より感染性胃腸炎 (ロタウイルス) が定点把握対象疾患となりました。

(定点あたり患者数)

疾病名	地域	週					流行傾向	
		2	3	4	5	6		
インフルエンザ	岩手県	21.57	35.4	45.29	56.98	52.09	↘	☆☆☆
	全国	26.44	51.93	52.35	54.33	45.38		
RSウイルス感染症	岩手県	0.75	0.9	0.4	0.43	0.25	→	☆
	全国	0.45	0.47	0.49	0.45	0.4		
咽頭結膜熱	岩手県	0.23	0.2	0.4	0.43	0.23	→	☆
	全国	0.33	0.3	0.31	0.31	0.28		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	3.3	4.83	4.63	4.75	5.4	↗	☆☆
	全国	1.88	2.65	2.52	2.61	2.63		
感染性胃腸炎	岩手県	3.53	4.65	4.73	4.23	3.85	↘	☆
	全国	5.29	6.18	5.12	5.11	4.72		
水痘	岩手県	0.33	0.15	0.6	0.3	0.25	→	☆
	全国	0.38	0.28	0.29	0.25	0.23		
手足口病	岩手県	0.28	0.55	0.63	0.33	0.43	→	☆
	全国	0.16	0.23	0.23	0.18	0.15		
伝染性紅斑	岩手県	0.23	0.1	0.28	0.23	0.18	→	☆
	全国	0.08	0.1	0.08	0.07	0.06		
突発性発疹	岩手県	0.43	0.25	0.38	0.23	0.23	→	☆
	全国	0.36	0.35	0.32	0.3	0.3		
ヘルパンギーナ	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.02	0.03	0.02	0.02	0.02		
流行性耳下腺炎	岩手県	1.05	0.73	0.5	0.58	0.28	→	☆
	全国	0.22	0.16	0.15	0.15	0.14		
急性出血性結膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01		
流行性角結膜炎	岩手県	0.93	0.36	0.29	0.36	0.64	→	☆
	全国	0.82	0.73	0.57	0.64	0.59		
細菌性髄膜炎	岩手県	0	0.05	0.05	0	0	→	
	全国	0.02	0.01	0.01	0.03	0.02		
無菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.03	0.03	0.01	0.01	0.03		
マイコプラズマ肺炎	岩手県	0.42	0.53	0.16	0.32	0.26	→	☆
	全国	0.24	0.25	0.2	0.15	0.18		
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	岩手県	0.05	0	0.05	0	0	→	
	全国	0.01	0.01	0.01	0.01	0		
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.05	0.05	0.06	0.08	0.12		
インフルエンザ (入院患者) ※報告数であることに注意	岩手県	44	94	51	81	63		
	全国	1,742	2,406	2,105	2,050	1,847		

【流行傾向の見方】

- 無印 : ほとんど患者が発生していません
- ☆ : 患者が発生しています
- ☆☆ : 警報値を超えた地区が1～2地区あります
- ☆☆☆ : 多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患 (過去5週の動き)

※ジカウイルス感染症が2016年2月15日から四類感染症に追加されました。

(患者発生数)

分類	疾病名	(週)					累計	全国	
		2	3	4	5	6		6	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	結核 ( ) 内は潜在性結核感染症患者再掲	5 (3)	2 (0)	8 (5)	6 (2)	5 (1)	29 (11)	295	2036
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	中東呼吸器症候群 (MERS)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H7N9)	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	2
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	5	19
	腸管出血性大腸菌感染症	0	1	0	0	0	2	9	58
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	2	9
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	1	2
四類 感染症	E型肝炎	0	0	0	0	0	0	6	29
	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0	0	0	11	37
	エキノコックス症	0	0	0	0	0	0	0	0
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	0
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	キャサナル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	1
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	0
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0	0
	ジカウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	0	0	0	0	0	0	0	0
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	つつが虫病	0	0	0	0	0	0	1	33
	デング熱	0	0	0	0	0	0	4	11
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1、H7N9を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	0
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0
ボツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	1	
マラリア	0	0	0	0	0	0	0	4	
野兔病	0	0	0	0	0	0	0	0	
ライム病	0	0	0	0	0	0	0	0	
リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0	
類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0	
レジオネラ症	0	0	0	1	0	1	22	125	
レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	0	0	
ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	

全数把握対象疾患 (続き) (過去5週の動き)

(患者発生数)

分類	疾病名	(週)					累計	全国	
		2	3	4	5	6		6	累計
五類感染症	アメーバ赤痢	0	0	0	1	0	2	13	74
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎及びE型肝炎を除く)	0	0	0	0	0	0	6	23
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	0	0	0	0	2	2	14	164
	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)	0	0	0	1	0	1	6	159
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	0
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	0	1	21
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	1	1	0	0	2	9	108
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	1	22	120
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	1	9
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	0	5	58
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	5
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	2	0	0	0	4	57	537
	水痘 (入院例)	0	0	0	0	0	0	2	37
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	梅毒	0	1	0	0	2	3	59	564
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	0	14
	破傷風	0	0	0	0	0	0	2	4
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	2
	百日咳	0	1	0	4	1	6	48	292
風しん	0	0	0	0	0	0	0	2	
麻しん	0	0	0	0	0	0	1	3	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	1	3	

今注目の感染症

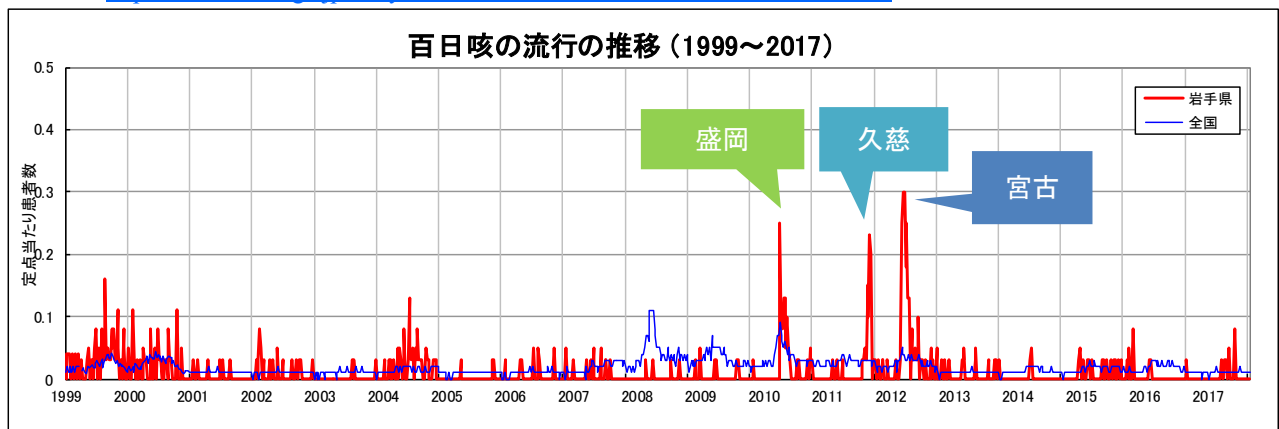
百日咳

百日咳は、「百日咳菌によって起こる急性の気道感染症」です。おもな症状は長期間続く咳で、特に新生児や乳児が罹患すると重症化するため予防接種が重要です。予防接種は、「百日咳ジフテリア破傷風不活化ポリオワクチン」を初回免疫として生後3か月以降に3回、追加免疫として1回接種することになっています。しかし、百日咳ワクチンの免疫効果は4～12年で弱まるため、接種していても感染することがあり、近年は思春期や成人層での集団感染事例が報告されています。大人は感染しても典型的な症状がみられないことが多く、ワクチン未接種児に感染し重症化させてしまうので、ワクチン未接種児の家族は特に注意が必要です。

岩手県の発生状況は、2010年に盛岡市で、2011年に久慈地区で、2012年に宮古地区で地域流行がありましたが、それ以降は、患者届出は全国と同様に少なくなっています。

百日咳はこれまで5類感染症 (定点把握疾患) でしたが、2018年1月より5類感染症 (全数把握疾患) となりました。2018年は第6週までに計6例の届出がされています。

参考 IASR 2017年2月号 特集 百日咳 2017年1月現在  
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/pertussis-m/pertussis-iasrtpc/7075-444t.html>  
 厚生労働省 感染症法に基づく医師及び獣医師の届出について (百日咳)  
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou1/01-05-23.html>



今注目の感染症 (つづき)

インフルエンザ

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを病原体とする急性の呼吸器感染症で、毎年世界中で流行がみられます。潜伏期間は1～3日間と短く、38℃を超える発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛等の全身症状が突然現れます。

岩手県では、例年11月下旬～12月上旬頃に発生が始まり、翌年1～3月頃に患者数が増大します。

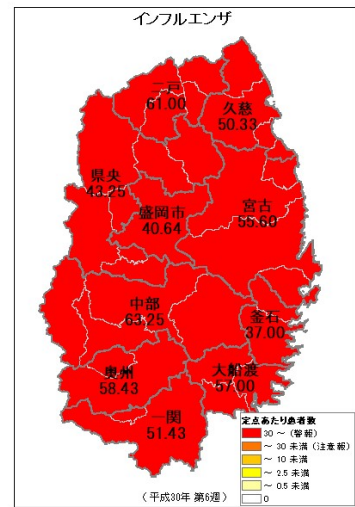
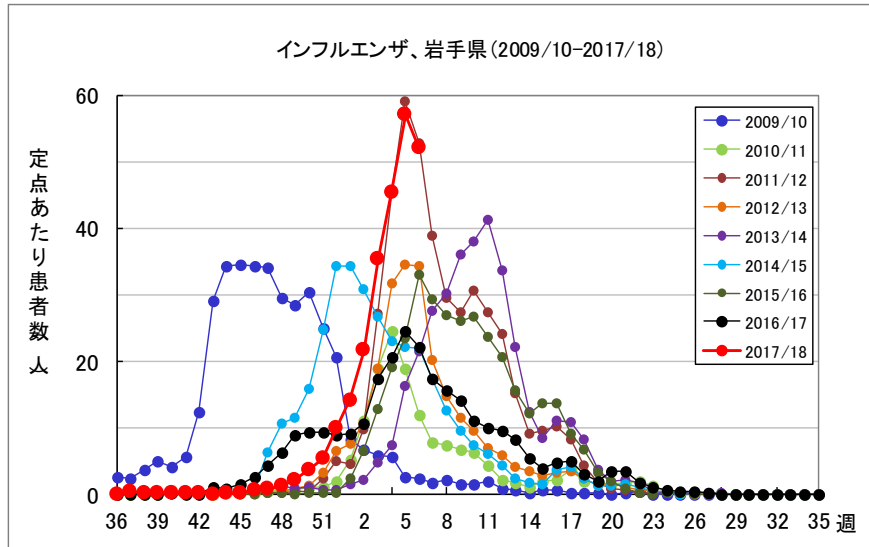
今シーズンは第48週に定点あたり患者数が1.22人となり、流行開始の目安である1.0人を上回りました。2018年第1週には14.15人と注意報値(10人)を超え、第3週には35.40人と警報値(30人)を超えました。流行警報が発令され、本格的な流行シーズンを迎えました。第6週の定点あたり患者数は52.09人で前週の56.98人からやや減少しましたが、3週続けて県内すべての地区で警報値を超えています。

県環境保健研究センターで実施したウイルス検査では、A/H3N2型(香港型)とA/H1pdm型、B型(山形系統)の3種類が検出されています。また、医療機関からの迅速診断キットの結果報告ではB型がA型よりも多い状況が続いています。

主な感染経路は咳、くしゃみ、会話等から発生する飛沫による感染(飛沫感染)であり、他に飛沫の付着物に触れた手指を介した接触感染もあります。

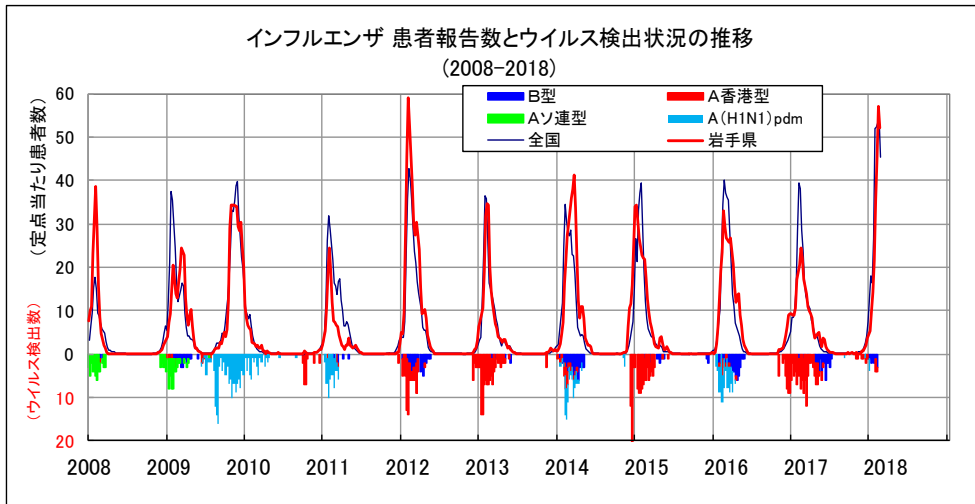
飛沫感染対策としての咳エチケット(有症者自身がマスクを着用し、咳をする際にはティッシュやハンカチで口を覆う等の対応を行うこと)、接触感染対策としての手洗い等の手指衛生を徹底することが重要です。

参考 国立感染症研究所 インフルエンザ <https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/219-about-flu.html>  
IDWR 2018年第3号 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/flu-m/flu-idwrc/7820-idwrc-1803.html>



岩手県 第6週

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点 国土数値情報(行政区域データ)」をもとに岩手県が編集・加工した。  
※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)を使用した。(承認番号 平29情使、第675号)



※インフルエンザシーズンは第36週から翌年35週まで

今注目の感染症 (つづき)

感染性胃腸炎

感染性胃腸炎は細菌やウイルス、寄生虫など多種多様な原因によっておこる胃腸炎の総称です。毎年秋から冬にかけて流行し、その原因はノロウイルスやロタウイルス等のウイルスが大部分を占めています。近年では、流行の前半ではノロウイルスが、後半ではロタウイルスが患者から多く検出されています。

感染性胃腸炎の報告数は、例年12月頃にピークを迎えますが、2017年の12月は比較的報告数が少ない状況で推移しました。2018年第6週の定点あたり患者数は3.85人となりました。今後の増加に注意が必要です。

集団感染事例は2017年10月からこれまでに保育所等から9例報告されています。このうち6例がノロウイルス、残りの3例がサポウイルスを原因としたものでした。感染性胃腸炎の主な原因となるウイルスは、感染力が非常に強く、少量のウイルスでも感染するので注意が必要です。

保育所や老人福祉施設など、集団生活を営む施設では、感染予防対策の再確認が勧められます。予防には、調理前や食事前、トイレの後などに石けんと流水による十分な手洗いを行うこと、患者の吐物や便を処理する際は、使い捨ての手袋やマスクを着用し、塩素系薬剤を使用すること、食品を十分に加熱することが重要です。

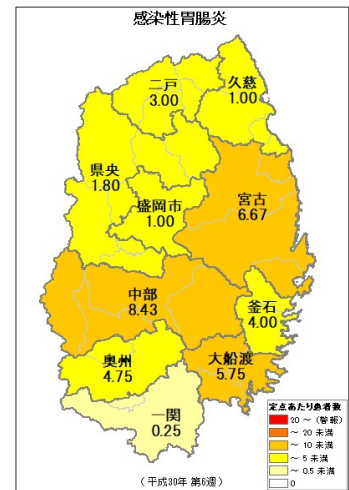
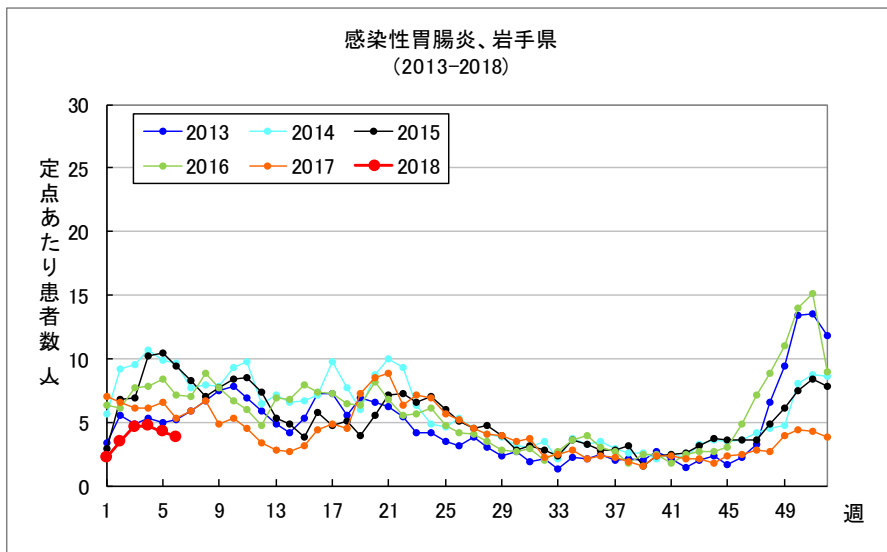
参考

国立感染症研究所 感染性胃腸炎とは

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/383-intestinal-intro.html>

厚生労働省 ノロウイルスに関するQ&A

[http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html)

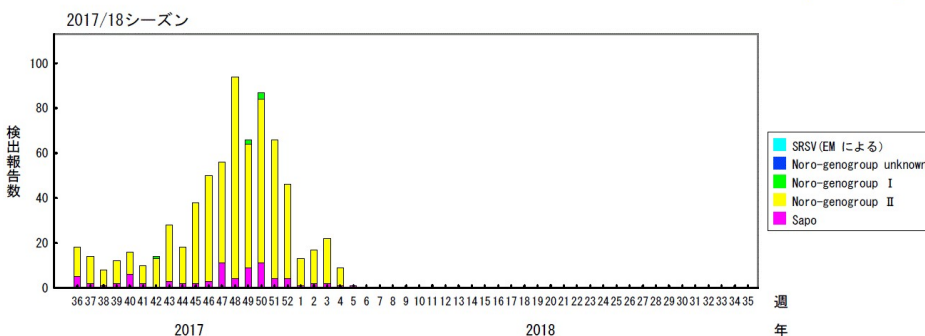


岩手県 第6週

各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した



※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点 国土数値情報(行政区域データ)」をもとに岩手県が編集・加工した。  
※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)を使用



全国のウイルス検出報告数 (2018年2月9日作成)  
国立感染症研究所 IASR 週別ノロウイルス、サポウイルスを検出報告数より、2017/18の箇所を掲載した。(https://www0.niid.go.jp/niid/idsc/iasr/Byogentai/Pdf/data11j.pdf)

## 病原体検出情報

- ・下気道炎の患者の咽頭ぬぐい液から、ライノウイルスを2件、RSウイルスを1件、アデノウイルス2型を1件、エコーウイルス3型を1件、それぞれ検出しました。
- ・上気道炎の患者の咽頭ぬぐい液から、アデノウイルス3型を1件、ライノウイルスを1件、それぞれ検出しました。
- ・ウイルス性口内炎の患者の咽頭ぬぐい液から、単純ヘルペスウイルス1型を1件検出しました。
- ・伝染性紅斑の患者の咽頭ぬぐい液から、パルボウイルス（B19）を2件検出しました。
- ・流行性角結膜炎の患者の結膜ぬぐい液から、アデノウイルス3型を1件検出しました。
- ・感染性胃腸炎の患者の糞便から、サポウイルスGII.3を4件、アデノウイルス2型を1件、それぞれ検出しました。

## 集団感染情報

○感染性胃腸炎の集団発生について

遠野市内の保育所（園児83名、職員22名）

- ・2月1日（木）から2月7日（水）までに園児17名、職員5名に症状（嘔吐、下痢等）
- ・有症者6名からノロウイルスを確認

○インフルエンザによる学校等の休業措置について（2月8日～14日発表分）

- ・岩手県 38件
- ・盛岡市 12件

詳細は岩手県医療政策室のホームページを御覧ください。

<http://www.pref.iwate.jp/iryuu/kenkou/Influ/index.html>

## 医療機関からの情報

- ・この週には医療機関からの情報はありません。

## Q & A

読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。

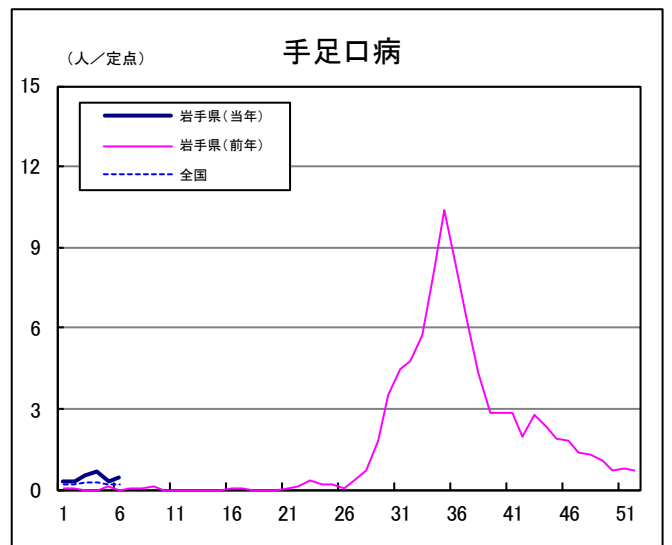
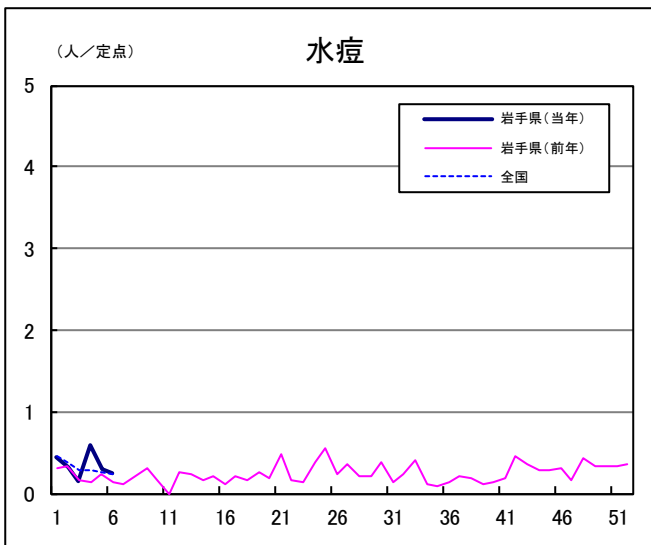
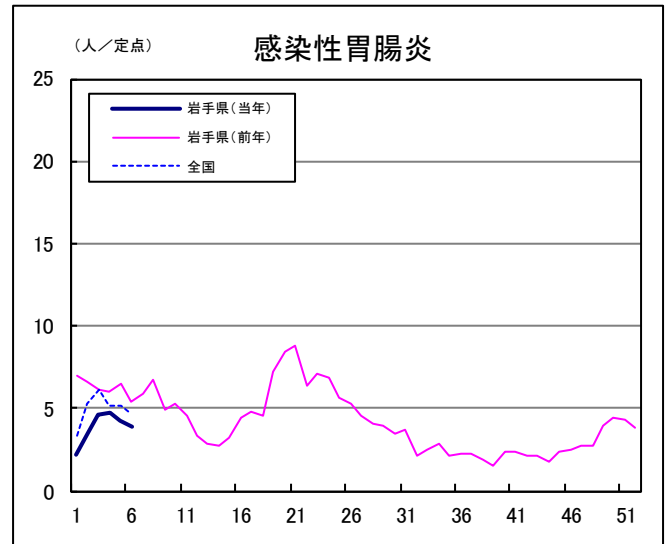
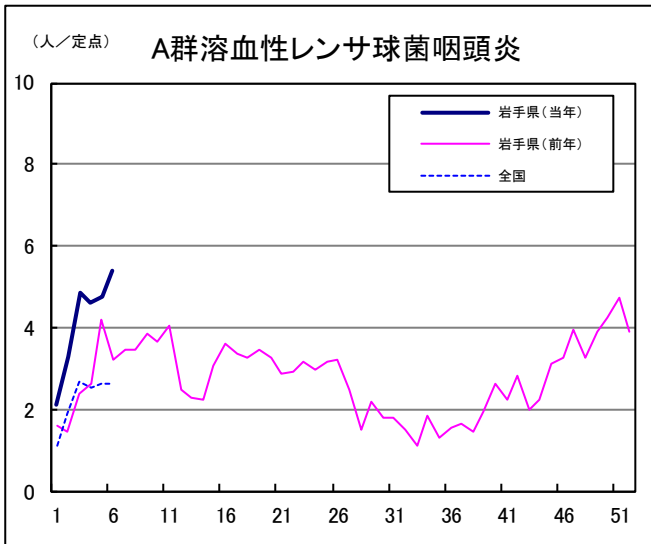
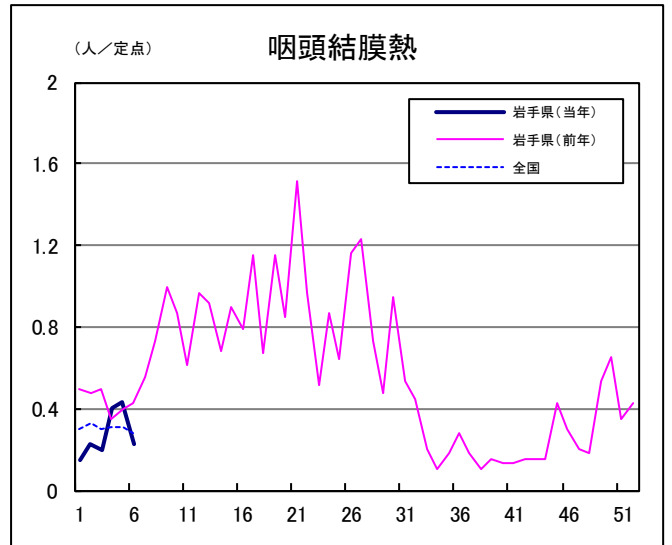
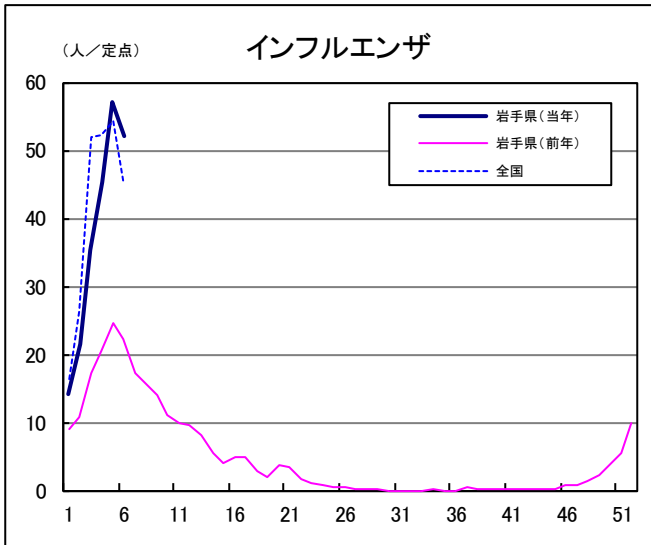
岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

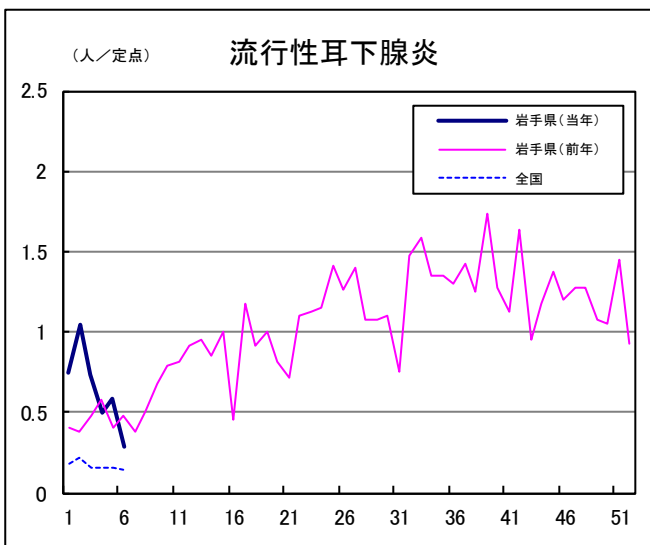
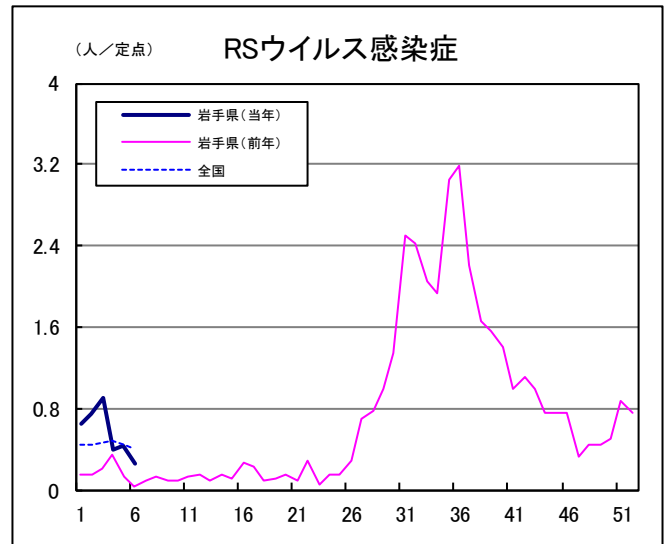
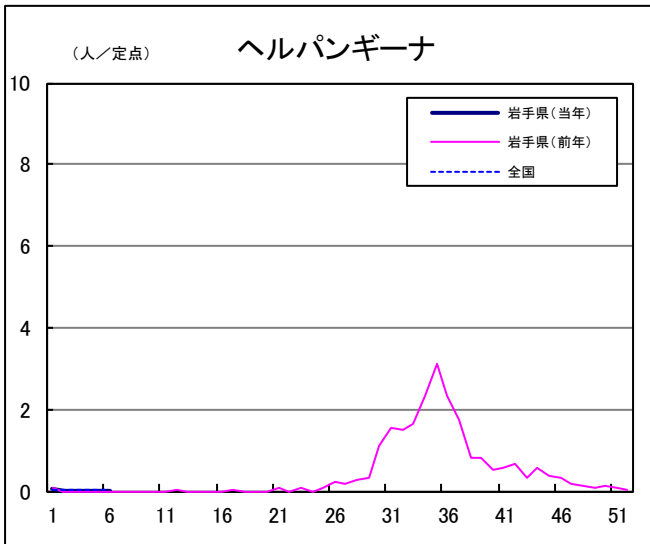
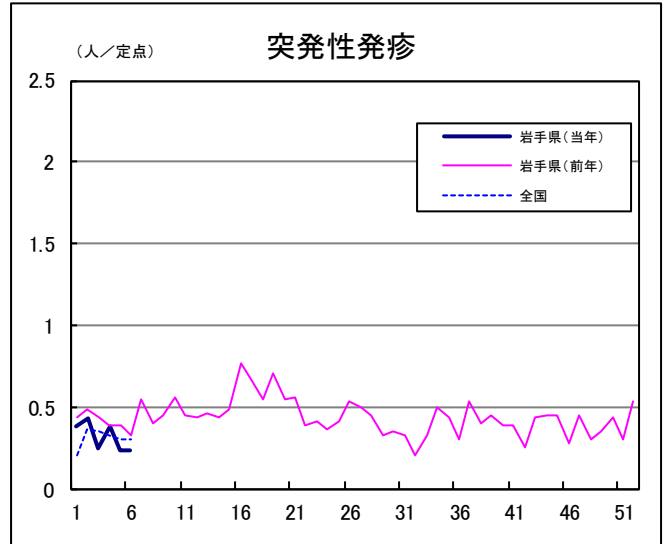
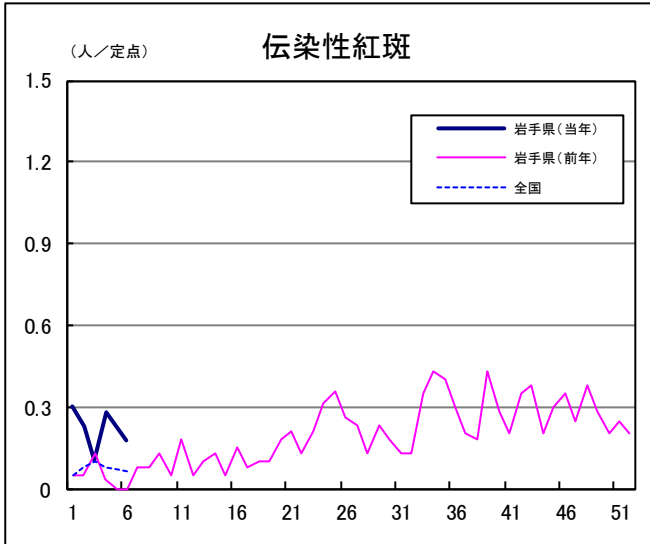
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667

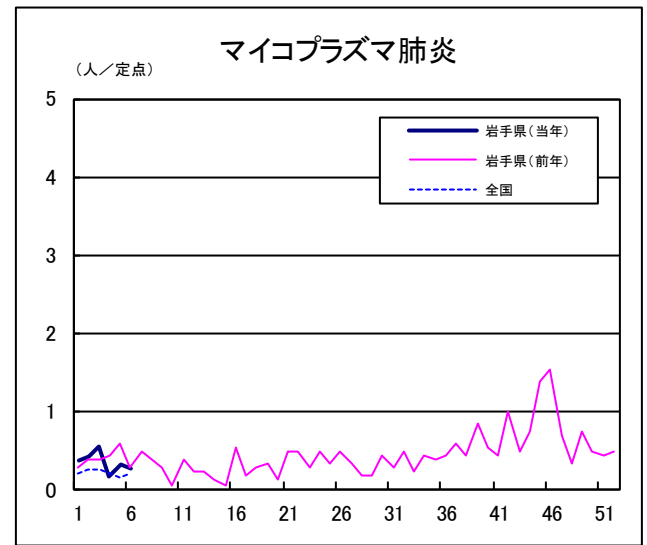
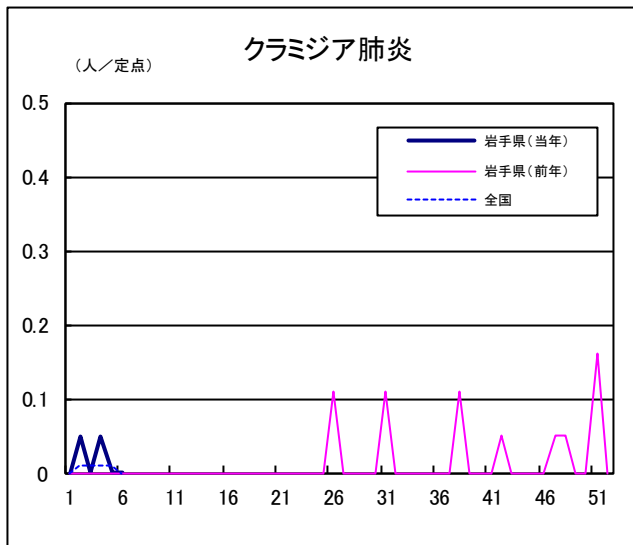
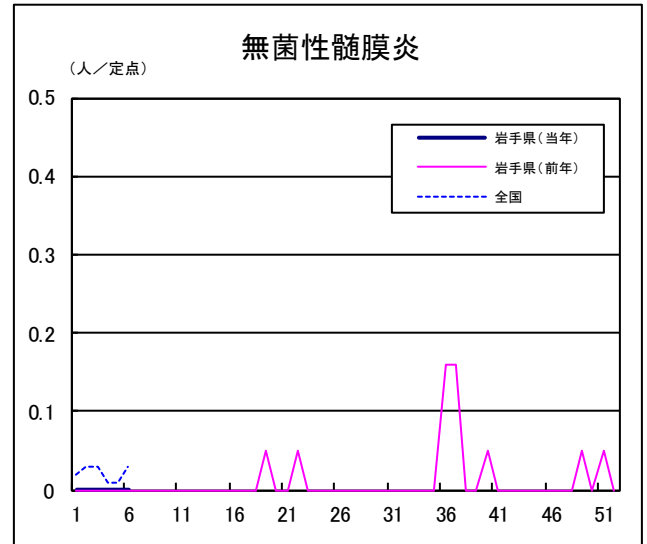
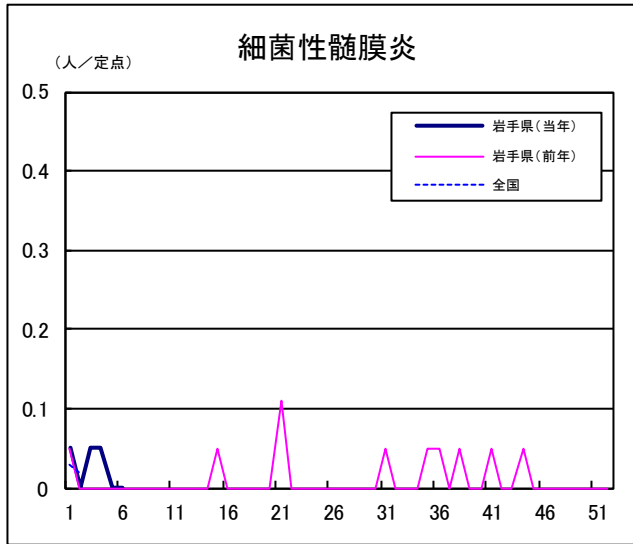
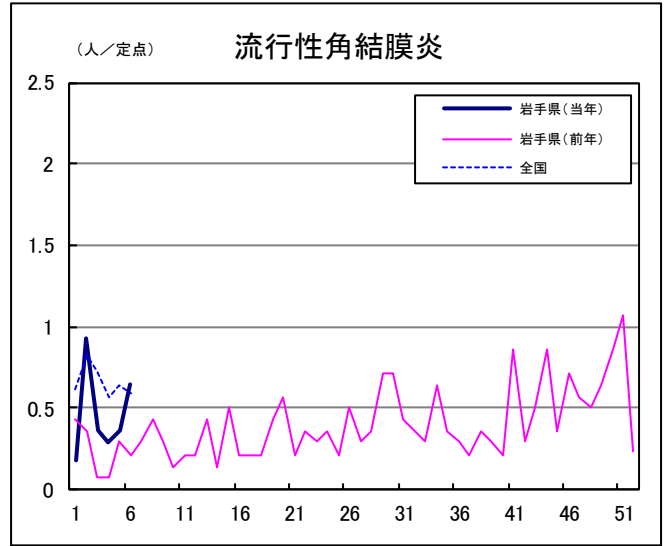
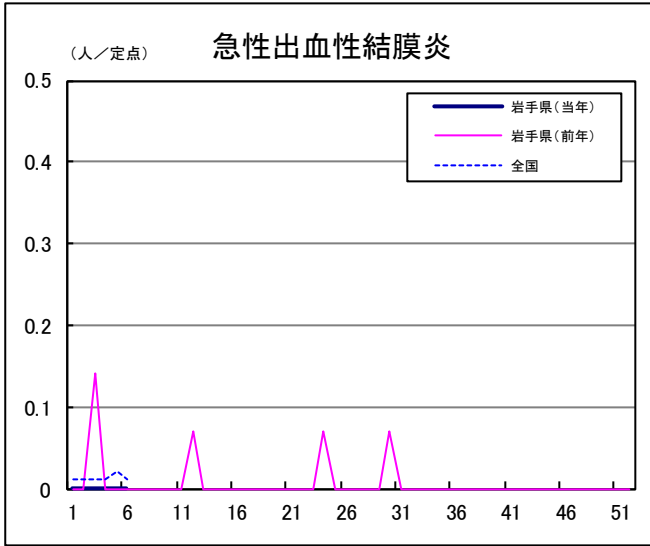
E-mail : CC0019@pref.iwate.jp

疾病別グラフ (定点あたり患者数の推移)









定点医療機関の数

地区	定点種別	インフル エンザ	小児科定 点	眼科定点	基幹定点
岩手県		65	40	14	19
盛岡市		11	7	3	5
県央		8	5	2	0
中部		12	7	2	4
奥州		7	4	1	2
一関		7	4	1	2
大船渡		6	4	1	1
釜石		3	2	1	1
宮古		5	3	1	1
久慈		3	2	1	1
二戸		3	2	1	2



無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 平成30年第6週 平成30年2月16日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査委員会

発行：岩手県環境保健研究センター  
岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター  
(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

URL: <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<http://www.pref.iwate.jp/iryuu/kenkou/index.html>

<岩手県保健福祉部医療政策室>